

派遣留学プログラム月間報告書 9月

勉学の状況

今月から楽しみにしていたスウェーデン語の授業が始まりました。このコースは毎週夕方開講され、授業が終わるとすでに外は真っ暗です。前から少し予習してはいたのですが、ä、ö、åといったスウェーデン語特有の文字があり、文法や発音の規則性など、英語とは違う点が多く、興味深いのですが正直かなり難しいと感じています。教科書はすべてスウェーデン語で書かれており、どの文を読むにも辞書が必須です。授業でわからないことがあると先生が優しく教えてくれるのですが、日本人を含めたアジアからのクラスメイトは少なく、ほとんどがドイツなどヨーロッパからの留学生です。そのためか、授業の進むスピードが非常に早く感じられ、かなり苦戦しています。時々課される宿題や小テストで自分の進捗状況を測れるのですが、まわりと比べるとまだまだだと痛感しています。時々、学んだ例文を買い物などの日常生活の場面で活かしてみようと思うのですが、伝わらないことを恐れてやはり英語で話しかけてしまいます。これまで英語が通じなかったことはなく、英語で学びに来ているのだからいいのでは？とも思うのですが、その国の言葉を少しでも話せるようになることで、よりその国の人々や文化を知ることができるのだと思います。大事なことはうまくバランスをとることだと理解しました。

そして今月末には Nordic Culture の Live in Seminar がありました。リンショーピンからバスで約 45 分、Rimforsa という、まわりを森に囲まれた、小さな田舎町を訪れました。森の中にあるコテージに 2 泊しながら、スウェーデンの文化を実際に体験しながら学ぶというものです。森林や湖のほたりなどの自然散策、湖上でのカメラ、静寂に包まれた夜の湖でのサウナなど数々のアクティビティを体験しながら、スウェーデンで継承されている民話や自然教育について学びました。最後はグループに分かれ、おのおのに割り振られた民話を実際に劇で再現しました。こんなことは小学校以来の経験で、どうしたらいいかわかり戸惑いましたが、ほぼ動かないトロール役を選んだので、何とか上手く演技らしいことはできたと思います。地域に伝わる民話を伝承していくことが難しくなっているのはスウェーデンも例外ではないらしく、その重要性を疑問視する人も少なくないそうです。しかし、こうした経験をすることで、私たちの世代にも代々受け継いでいくことができます。このセミナーの目的はスウェーデンの文化を肌で感じることでしたが、そのみならず、スウェーデン人がいかに自然を大事にし、それが生活の一部となっているか身をもって知ることができました。夜のサウナからの帰り道、濃霧の中に月明かりで照らされた鹿の群れを見つけたときの神秘的な光景は今でも脳裏に焼き付いています。このセミナーではクラスメイトとの絆をより深めることができただけでなく、自然を愛することを学べた貴重な 3 日間でした。



生活の状況

まだ9月ですが、朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。日中は十分暖かいのですが、夜はコートや羽織りたいくらいです。時々夜に寒くて目が覚めるのですが、暖房はどこかで一括管理されているらしく、まだ作動する気配を見せません。そんなときによく行くのがサウナです。寮に住んでいる人はサウナをはじめ、ランドリーや卓球場、ビリヤードなど、寮内にある施設をオンライン上で予約して無料で利用することができます。サウナの利用は時間帯で区切られており、予約をした人のみが入れるようになっているので、なんと貸し切り状態で使うことができます。中にはシャワーやテーブル、椅子などが完備されており、温度も自分で調節できるようになっています。リフレッシュしたいときなどにもよく利用しています。

また、最近外を散歩しているとよく木からリンゴや梨をもぎ採っている人を見かけます。スウェーデンではすべての共有地でベリーなどの果物やキノコを自由に採取することができます。ただし、分別をわきまえ、適度な量に抑えるのが暗黙の了解です。味もスーパーに売っているものと遜色ありません。冬が来る前にたくさん採りに行こうと思っています。

